

ふるさと 資料紹介

= ④9 =

史料と地名からみた
地区の歴史④

太田(四)

現在の深田地区は、中世は深田郷と記され、近世には深田村となりました。

深田郷は、明徳元年(一二三九〇年)足利將軍家から京都祇園社(八坂神社)に寄進さ

れた所領で、「八坂神社文書」などで当時の様子を知ることができず。

応永年間(一四世紀末から一五世紀初め)から武士勢力の押領などが頻繁におきました。永禄十二年(一五八九年)の八坂神社(合祀されて現在は深田神社になっています)の棟札には「奉建立祇園御社美濃州賀茂郡南蜂屋庄深田

◀ 深田神社の青面金剛像



郷」の文字が

記されており、
当時深田郷が

「南蜂屋庄」
の一部であつ
たことが分か
ります。

江戸時代に
入ると、太田
村と同じく尾
張藩領となり

ました。寛政年間、戸数は八一、人口三百余人となつています。

深田神社の社殿西の青面金剛像は寛文十年(一六七〇年)に建てられたもので、この地域では最も古いものの一つです。いわゆる庚申さまとして信仰されていますが、二匹の猿と鶏が彫り出され、素朴で奔放な姿が特徴です。